

# 令和 3 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	51	学校名	茨城県立石岡第二高等学校				課程	全日制		学校長名	辻 武晴					
教頭名	井上 正治								事務(室)長名	吉田 良子						
教職員数	教諭	37	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	50
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	51	98	47	111	68	83			166	292	12				
	生活デザイン科	3	37	5	35	2	29			10	101	3				

## 2 目指す学校像

<p>(1) 変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する学校</p> <p>(2) 伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校</p> <p>(3) 普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、社会に貢献できる生徒を育成する学校</p> <p>(4) 家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校</p>
--

## 3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の理解度について、生徒と教職員間の認識に差があり、生徒が自ら主体的に学ぶ意欲を高め、学力を向上させるための指導の工夫・改善が求められる。</li> <li>全教職員によるカリキュラムマネジメントの充実を通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、「わかる授業」を実施する。</li> <li>「教わる」から「学ぶ」への意識の変化を求め、インプットからアウトプットへ授業内容の理解</li> </ul>

	<p>て、教育課程の工夫・改善についての研究を進める。</p>	<p>や深化を支援するアプローチの研究と実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科併置校の強みを生かし、全教科が有機的に繋がる学びの場を創出する。</li> </ul>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年ぶりの国公立大学の合格者を含め、約2割の生徒が大学・短大に進学した。専門学校等への進学は約4割であった。</li> <li>・大学入試共通テストの受験者は11名であった。</li> <li>・学校斡旋による就職希望者は全員が内定を得た。</li> <li>・今年度はコロナ禍の中、求人については生徒にも不安が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の意義について、全教職員の共通認識のもとで行われる指導を充実させる。</li> <li>・入学時からの高い進路目標と意識の継続のための効果的・系統的な指導の工夫を図る。</li> <li>・現状に即応する情報の提供と進路実現を支援できる体制を整備する。</li> <li>・自己の可能性の発見や実現に向けたキャリア・カウンセリングの機会の確保と質の向上を図る。</li> </ul>
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時の身だしなみ指導の取組等により、服装・頭髪指導等の徹底を図ってきたため、落ち着いた雰囲気である。</li> <li>・90%を超える生徒は、「自らがルールを守っている」、「挨拶・礼儀・マナー」について肯定的に捉えている。</li> <li>・他者に配慮し、協働して問題解決を図ることができる態度を育成する。</li> <li>・生徒一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制の充実が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の方針・基準を明確化・具体化した指導体制を確立する。</li> <li>・生徒が自分自身の行動について見つめ、考えることのできる指導の工夫と自己指導能力を育成する。</li> <li>・生徒一人一人の状態や特性を理解し、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行う。</li> <li>・不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けて、定期的な教育相談を実施することで、早期の適切な対応に努める。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、様々な生徒による活動が制限を余儀なくされている。</li> <li>・生徒会主催の諸行事を精選せざるを得ない。</li> <li>・部活動加入率の低下が懸念される。</li> <li>・キャリア・パスポートを活用し、主体的に取り組む姿勢をさらに涵養する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限のある行事等の中でも十分に工夫し体験できるという経験を蓄積させるため、生徒が主体的に関われるための手厚い支援を継続する。</li> <li>・継続した活動に対する評価により、部活動の意義をより深く理解させる。</li> <li>・キャリア・パスポートの活用によって、自己有用感の醸成及び望ましい自己変容の自覚を促す。</li> </ul>
<p>学びのスタイル改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県事業チャレンジ・プロジェクトの重点校として、「筑翠ルネサンス」を通じて、探究を軸とした学びのスタイルの構築が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究スキル向上プログラムや地域理解・地域創生プログラムを設定する。</li> <li>・「和の心」体験活動及び国際交流事業を推進する。</li> <li>・各教科等における課題解決型学習の展開とICT活用を促進する。</li> <li>・生活デザイン科の学びを深める体験学習事業を推進する。</li> </ul>
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きんむくん」の利用の徹底や学校閉庁日の設定、留守番電話の導入等による教職員の働き方改革を推進してきた。</li> <li>・勤務時間管理等を通じた教職員の意識改革がさらに求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間労働の一層の是正と校務の精選を継続させる。</li> <li>・部活動運営方針を遵守し、生徒及び教職員が過度の負担とならない部活動の計画及び実践を行う。</li> <li>・教職員のワーク・ライフ・バランスのため、超過勤務の偏りの是正と風通しのよい職場環境づくりに努める。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムマネジメントやワーク・ライフ・バランスに関する研修を実施する。</li> <li>・事務室との連携と協働等、学校マネジメント機能を強化する。</li> </ul>
事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の効率的な執行とともに、校内環境等の整備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的執行を図るとともに、事業の優先順位を踏まえ、かつ経費の削減に向けて工夫を凝らした執行に努める。</li> <li>・施設設備の安全面の維持や植栽等の環境整備を実施する。</li> <li>・順次、LED化を促進する。</li> <li>・「学校の新しい生活様式」に合わせた環境整備に努める。</li> </ul>

#### 4 中期的目標

- (1) 筑翠ルネサンス事業による体験活動を充実させることによって、生徒一人一人にしっかりした人生観・職業観を持たせ、生徒の適性や個性に合った進路の実現を図る。また、生徒の意欲的な学びを習慣化させるため、授業改善の工夫を継続する。
- (2) 部活動やボランティア等の体験活動を通して、社会性を養うとともにその仕組みや自己の役割を理解し、高い目標を持って努力し続ける態度を涵養する。
- (3) 地域社会の理解と協力を得ながら、地域の文化や特色を生かした教育活動を行い、地域に開かれた学校づくりに努力する。
- (4) 日本の伝統文化や国際交流の体験活動を積極的に取り入れ、自国文化と異文化理解を深めるとともに、国際感覚を育てる。
- (5) 働き方改革を推進し、長時間労働の是正だけでなく柔軟な働き方ができる職場環境づくりを推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<p>① 「筑翠ルネサンス」(チャレンジ・プロジェクト)の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普通科と生活デザイン科の協働を図り、地域の課題を発見・解決し、新しい価値を創造する教育活動を展開する。</li> <li>○生徒が地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合っ、学校内外へ向けて提案・実践する取組を実施する。</li> <li>○日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。</li> <li>○自国文化や異文化の理解を深める指導の充実を図り、国際交流体験活動を定着させる。</li> </ul>
<p>② 豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。</li> <li>○「道徳」や「道徳プラス」の授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。</li> <li>○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。</li> <li>○教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。</li> </ul>
<p>③ 探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、自ら主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを構築する。</li> <li>○協働学習・「個別最適な学び」・「協働的・探究的な学び」・反転学習等、ICTを活用した教育活動を推進する。</li> <li>○学習アプリの活用を促進する。</li> <li>○異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

<p>④ 多様な進路希望に対応したキャリアデザインの形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図る。</li> <li>○就業体験活動（インターンシップ）等、キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進する。</li> <li>○キャリア・パスポートの活用と充実を図る。</li> </ul>
<p>⑤ 部活動やボランティア活動等の体験的活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の支援のもと、部活動の充実を図るための取組を推進する。</li> <li>○生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。</li> <li>○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。</li> </ul>
<p>⑥ 開かれた学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。</li> <li>○学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。</li> </ul>
<p>⑦ 働き方改革の推進と職場環境の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定時退勤日や完全退勤時間等を設定し、超過勤務時間の縮減に努める。</li> <li>○時差出勤制度を積極的に活用する。</li> <li>○部活動運営方針の徹底を図る。</li> <li>○教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。</li> </ul>
<p>⑧ コンプライアンスの遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。</li> <li>○教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。</li> <li>○教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)